



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2008 Vol.9, No.3

「日本・東アジア対話」開催 東アジアにおける環境・エネルギー協力の展望

当フォーラムは、東アジア共同体評議会、シンガポール国立大学東アジア研究所との共催により、6月10日、東京において「日本・東アジア対話：東アジアにおける環境・エネルギー協力の展望」を開催した。

国境を超えて「地域化」している環境・エネルギー問題への対処について、ASEAN、中国、韓国の12カ国およびASEAN事務局から計17名の論客を迎えて、日本側専門家との間で徹底した議論を行った。当日の参加者は、合計126名であった。

持続可能な成長を求めて

午前の部「東アジアにおける環境・エネルギー問題の現状と課題」では、まず廣野良吉成蹊大学名誉教授とサイモン・テイ・シンガポール国際問題研究所会長の2人の基調報告者から、報告がなされた。廣野教授は「アジア経済発展の持続性維持にとって、石油価格の高騰やドーハ・ラウンドの失敗と並んで、地球温暖化や水質汚染・水不足などの環境問題が重大な脅威となっている。この問題を各国の発展戦略にどう組み込むかが鍵だが、その意味で、炭素税導入などを盛り込んだ『福田ビ

ジョン』を高く評価したい」と述べ、テイ会長は「これまで当然視されてきたエネルギーの安定供給の保障が崩れるなかで、経済成長が水や大気汚染だけでなく、地球温暖化をつうじて環境や気候変動に大きな影響を与えている。エネルギー・経済・環境は密接な相関関係の三角形を形成しており、国家、地域、国際社会は各レベルでその3つの問題の同時解決に努力しなければならない」と論じた。

引き続き行なわれた出席者全員の参加する自由討論では、「環境問題への取組みには、営利ベースと知的ベースの両方のアプローチが必要だ」(中国)、「環境問題への取組みには『自発』型と『強制』型を組み合わせる必要がある」(ブルネイ)等と、活発な意見が述べられた。

気候変動対策と地域協力

午後の部「東アジアにおける環境・エネルギー協力の展望」では、モハメド・イスマイル・マレーシア・ケバングサーン大学環境開発研究所主席研究員と明日香壽川東北大学東北アジア研究センター教授の2人の基調報告者から報告がなされた。イスマイル主席研究員は「東アジアは人口が多く、沿岸部や低地に集中し、気候変動の影響に対して脆弱である。数十年先の気候変動を避けることは困難であり、残された選択肢は、共同体、生態系、地域経済を守るため気候変動に適応することであり、そのための地域協力を強化する必要がある」と述べ、明日香教授は「気候変動への取組みにあたって、先進国の途上国に対する技術移転は、衡

平性の観点から、もはや先進国の義務と考えるべきだ。技術移転をめぐっては、知的財産権の主張が障害になっているが、この点については、技術移転への各種優遇措置などの国内的、国際的な政策が求められる」と述べた。

引き続き行なわれた出席者全員の参加する自由討論では、「現在求められているのは、富める国と貧しい国の歴史的和解ではないか」(ベトナム)、「途上国も地球温暖化ガスの排出削減目標を受け入れる必要があるのではないか」(日本)、「『京都議定書』は機能しておらず、あらたな目標を設定する必要がある」(ASEAN)等と、活発な意見が述べられた。



活発に議論する参加者たち

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の12社20口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キョコマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

日本郵船 (入会日付順)



開幕挨拶をする
伊藤憲一当フォーラム執行人世話人
(左から2人目)

議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp/jpn.htm>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

日本評価の内外格差に思う

山梨学院大学教授 小笠原 高雪

英国のBBC放送が毎年おこなっている国際世論調査の最新結果によると、日本が世界に対し「良い影響」を与えているという答は56%で、「悪い影響」を与えているという答の21%を大きく上回っている。「良い影響」から「悪い影響」を差し引いた結果によって順位をつけると、ドイツ (+38)、日本 (+35)、欧州連合 (+31)、フランス (+26)、英国 (+26) が上位5傑だ。しかし、興味深いことに、日本人自身のなかで、日本が「良い影響」を与えていると答えた人は、36%に止っている。外国人による評価よりも自国民の評価のほうが低い国は、珍しい。

日本人の自国評価の低さは、日本人の「控え目」な性格、あるいは「反省好き」と関係があるのだろうか。「控え目」も「反省好き」も悪いことでは決してないが、それも行きすぎるべきではない。「日本の経済援助は、途上国で歓迎されていない」とか、「自衛隊の海外派遣は、各地で不安を引き起こしている」とかの風説がある。そうしたケースも皆無であるとは思わないが、もしそれが世界の大勢であったならば、上述のような調査結果は決して出ないはずである。自国の政策の良い面を正しく認識できなければ、それを続けることも、困難になるであろう。

(2008年4月10日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 5/20 「なぜこの時期に“竹島”か」
(杉浦正章) | (古屋力) |
| 5/15 「成果の多かった胡錦濤主席の訪日」(上田勇) | 4/22 「日本は北極圏外交に取り組み」
(河合正男) |
| 5/9 「ごこちない日中関係の構造要因」(伊奈久喜) | 4/15 「世界から見放される日本」
(森敏光) |
| 5/8 「『安心』『安全』『安価』『安定』の農業を」(岩國哲人) | 3/24 「首相の『言葉』とチベット問題」
(佐島直子) |
| 4/27 「オストリッチ症候群の日本」 | 3/19 「期待される国際捕鯨委員会の新しい動き」(大河原良雄) |

GFJ E-Letter 創刊さる

当フォーラムは4月15日に英語版メルマガ「GFJ E-Letter」を創刊し、全世界5千人の登録者に配信した。当フォーラム政策掲示板「議論百出」掲載の投稿論文は、英語版ホームページの「GFJ Commentary」欄に随時英訳、転載されているが、「GFJ E-Letter」はその中から毎月の代表的な投稿論文を選んで「GFJ Commentary of the Month」として紹介する。毎月15日発行。

フォーラム活動日誌(3-6月)

- 3月1日『メルマガ・グローバル・フォーラム』3月号発行
- 3月6-8日伊藤憲一執行世話人ワシントン出張
- 3月18日第202回国際政経懇話会(手嶋龍一氏他22名)
- 4月1日『メルマガ・グローバル・フォーラム』4月号発行
- 4月15日「GFJ E-Letter」創刊
- 4月18日 来日したHadi SoesastroインドネシアCSIS所長と第7回「日・ASEAN対話」協議(村上正泰常任世話人、渡辺繭事務局長他)
- 5月1日『メルマガ・グローバル・フォーラム』5月号発行
- 5月15日「GFJ E-Letter」5月号発行
- 6月9日「日本・東アジア対話: 東アジアにおける環境・エネルギー協力の展望」大河原良雄代表世話人主催開幕夕食会
- 6月10日同上「日本・東アジア対話」本会議I、II(ラマン・レッチュマナンASEAN事務局環境・災害管理ユニット長他125名)、伊藤執行世話人主催懇談夕食会

「日・ASEAN対話」開催へ

当フォーラムはASEAN戦略国際問題研究所連合との共催により、「日・ASEAN対話」を10月末に東京で開催する。4月18日には、インドネシア戦略国際問題研究所(CSIS)のハディ・ソエサストロ所長が来日し、村上正泰常任世話人や渡辺繭事務局長と今次対話のテーマ、プログラム等につき協議した。

手嶋龍一氏、米大統領選の「新しい波」を語る

3月18日に開催された第202回国際政経懇話会(朝食会)は、元NHKワシントン支局長の手嶋龍一氏を講師に迎え、アメリカ大統領選の動向について話を聴いた。

手嶋氏より「対イラク政策と経済問題が争点だが、今後大規模なテロが起きれば、対テロ戦争が優先されよう。米大統領選はタブーへの挑戦だと言わ

れ、黒人と女性のタブーを指摘する声が多いが、米国はすでにそれらのタブーを克服している。他方、日米関係の基調は悪化しており、米新政権がどういう対日政策を取るかではなく、日本としてどうするかという観点から考えなければならない」等の講話があり、その後出席者22名との間で活発な懇談が行われた。



グローバル・フォーラム会報
2008年夏季号
(第9巻 第3号 通巻第35号)

発行日 2008年7月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 藤野 智子

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.gfj.jp/>